

新しい釣りコミュニティ創出のための釣りアプリケーション

発表者 釜谷 優来 指導教員 江崎 修央

Fishing Support System for New method for Fisher's Community

1. はじめに

日本の釣りは、現在 2 つの課題を抱えている。1 つ目は社会の変化による趣味の多様化で、釣りを始めるきっかけがないこと。それにより、日本の釣り人口は 1300 万人から 560 万人と大きく減少した。2 つ目は釣具のネット販売の割合が高まり、地域の釣具店の売上が減少したこと。地域の釣具店がなくなると、地域のコミュニティがなくなるきっかけにもなる。

本研究では、釣りの危機的状況を盛り上げるため、釣行の閲覧・表示・誘導・記録を行うアプリを独自開発しサービスを提供することで、釣り人口の減少と釣具店の売上増加を実現する。

2. 釣行アプリケーションと釣果マップの概要

提案する釣行アプリケーションシステムは、図 1 に示す通り釣行の閲覧、釣果マップ、誘導を行うクエスト、釣行の記録の 4 つの機能で構成されている。

釣果マップでは、実際の店舗に設置し「いつ、どこで、何が、何で」釣れたかを表示することとした。釣行アプリケーションにおいて、釣れた魚の種類をカメラで判別し記録しているため、その情報を利用している。



図 1 システムの流れ

3. 釣行の閲覧

釣行の閲覧の機能では、時間や場所を選ばず、釣行を確認することができる。他人の釣行が気になり毎日開く理由となる。これにより利用者自身が釣行計画を立てることになり、リピーターとなることが期待される。



図 2 釣行の閲覧画面

4. 釣行の記録

スマートフォンのカメラで釣行記録開始ボタンを押すと始まる。AI による魚種の判別で、「いつ、何を」釣ったかをリアルタイムに記録する。釣行終了ボタンを押すと、自動で釣行日誌が作成される。



図 3 釣行記録画面

5. クエスト

クエストでは釣りの目標を設定し、釣りの技術向上をはかるために行う。また、クエスト達成に必要な釣具を提案することで、釣具を釣具店で購入するよう提案する。これにより釣具店の売上の向上が見込める。



図 4 クエスト画面

6. 釣果マップ

釣果マップでは「いつ、どこで、何が、何を使って」釣れたかを表示する。また、そのときの潮汐表も表示される。

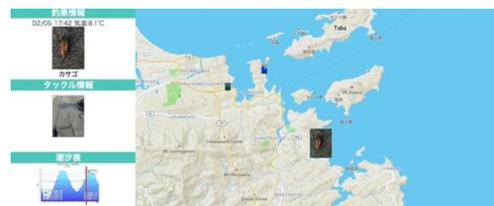


図 5 釣果マップ画面

7. まとめ

本研究では、釣り人口の減少と釣具店の売上増加に貢献する釣行アプリケーションを提案することができた。また、えさ市場えさきち様にご協力して頂き、釣果マップの表示方法等についてのフィードバックを受けることにより、システム開発や改良の参考とさせていただいた。